

つながりを大切に

細川 博史（教育・平成9年卒・神戸市教職員研修所）

先日、松楠会の総会に初めて参加させていただきました。卒業後は神戸市で中学校教員として働いています。実家も香川ではないため、どうしても足が遠のいてしまい、大学の構内に入ったのは、27年ぶりでした。せっかく大学に行くのだからと思い、総会前日の金曜日に高松へ。事前に恩師の宮崎英一先生と連絡が取れ、27年ぶりにお会いすることができました。近況報告や思い出話に花が咲き、時間を忘れてなつかしさに浸ることができました。

大学時代は、技術研究室とソフトテニス部とガソリンスタンドのアルバイトに明け暮れ、毎日がとても充実していました。技術研究室は、アットホームな場所でした。教科の特性上ほとんどが男子学生で、女子学生が多い教育学部の中では異色の研究室でした。朝は、研究室から授業へ行き、空き時間は研究室で過ごすなど、4年間私にとって大切な居場所でした。少人数のため、どの先生方にも日々の授業や教員採用試験への準備などで、きめ細かな指導をしていただきました。また、同級生だけでなく、先輩後輩との結びつきも強く、楽しい思い出がたくさんあります。ソフトテニス部には、入学当初から入部しようと思っていました。四国学生ソフトテニス連盟に加盟している体育会サークルです。年数回行われる四国学連の大会での優勝を目指し、仲間と切磋琢磨しました。大きな掛け声や部内での競い合い、上下関係など、今の時代では懐かしい一時代前の部活動でした。3年生ではキャプテンも務めることができ、心身共に鍛えていただきました。ガソリンスタンドのアルバイトは、ソフトテニス部の友達に紹介してもらいました。私にとって初めての社会経験でした。給油だけでなく、洗車やエンジンルームの点検も担当させていただきました。車に興味を持ち始めた頃でもあり、技術科の電気や機械分野の内容にもつながることもあって、とても有意義な時間だったなと思います。

私が、大学生活で得たものは、人とのつながりです。4年間楽しいことばかりではありませんでした。授業や教育実習、卒業研究では、なかなか思うように行かない場面もありましたし、ソフトテニス部のキャプテンとしてチームをまとめる難しさを実感したこともありました。でも、どんな時でも、周りには、私を支えてくれる人がいました。先生方や同級生、先輩、後輩、アルバイト先のスタッフの方などと出会えたことが、私の宝物です。そしてその宝物は、今も私の心の中で輝き続けています。

兵庫支部（紫雲会）では、年2回、総会と若手懇親会を行っております。大先輩から若手まで、幅広い年代の同窓生との交流ができる会となっております。初対面の方ばかりですが、同じ学び舎で過ごしたことで、すぐに打ち解け合うことができつながりを感じ。これからもつながりを大切にしていきたいと思います。